こらっせ便り

2016 年 6 月 18 日

【編集・発行】「福島子ども・こらっせ神奈川」
ＴＥＬ：045－353-9008　　Ｅメール：info@korasse-kanagawa.org

今年の「神奈川リフレッシュプログラム」で～す！

「福島子ども·こらっせ」事務局

みなさまのあたたかいご支援のおかげで、今年も８月３日から５日まで「神奈川リフレッシュプログラム」を実施することになり、子どもたちの募集をスタートしました。プログラムも大まかに決まりましたが、現在「こらっせユース」が、イベントの内容をつめているところです。

今年も自然がいっぱいの山北町で宿泊、最終日は横浜で目いっぱい遊ぶという従来のパターンは変わりませんが、低学年の応募が予想されることもあり変更したことがあります。２泊３日としたので学習時間をとらないこと、交通手段を観光バスから列車に変えたことです。特急ひたちと東海道線で最寄り駅まで移動、山北町のご配慮で町のバスを出していただくことになりました。学生・事務局、5，６人が付き添い、いわき⇔神奈川の送迎をします。

前号の「こらっせ便り」でもお知らせしたように、楢葉町·福島の現状の変化に対応すると同時に、「交流」の大切さをふまえ、募集対象を楢葉っ子のみならず、いわき周辺の子どもたち、神奈川県在住の避難者に広げました。今年は子どもたちの中から何が生まれてくるのでしょうか。楽しみです！

2016 年度　神奈川リフレッシュプログラム（仮）

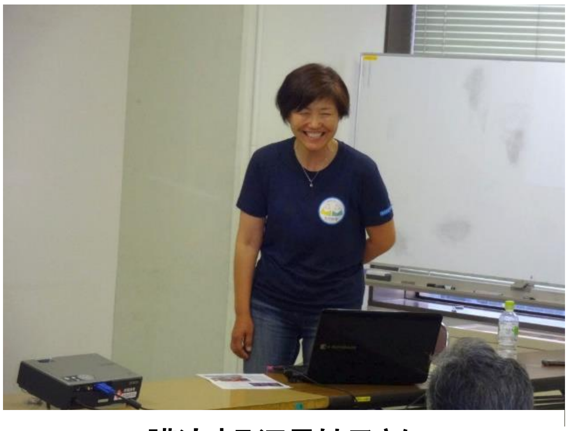
日時		場所	プログラム
8月3日（水）	午前	いわき駅出発	集合
	午後	山北町丹沢湖ロッヂ到着	
			オリエンテーション
	夜		BBQ+キャンプ·ファイアー
		丹沢湖ロッヂ泊	
8月4日（木）	午前	丹沢湖周辺	イベント（企画中）
	昼	丹沢荘へ移動	
	午後		川遊び
	夜		花火大会など
		丹沢荘泊	
8月5日（金）	午前	横浜みなとみらいへ移動	グループごとに横浜散策
	昼	みなとみらい周辺	ランチ
	夕方	桜木町駅出発	横浜散策
	夜	いわき駅到着	解散

被ばくから守り自然の中で子育てを
－キックオフ講演会報告－

5月29日（土）神奈川県民サポートセンターで、2016年度「神奈川リフレッシュプログラム」に向けたキックオフ講演会が行われました。約40人が集まり、講師の話や学生の報告を熱心に聞きました。

最初にあいさつに立った山際正道代表は「楢葉町は帰還を進めていますが、進める町の職員が楢葉町から離れたところに住んでいるように、表向き「もう放射線は大丈夫ですよ」と言いながら、でも心配という心情があるようで、このあたりに楢葉町の悩みがあるように思います。私たちはこうしたことに関わりながら、できるだけ応援を続けていきたいと思います。今年も『リフレッシュプログラム』を成功させましょう」と述べました。

保養は必要



講演する辺見妙子さん

このあと福島市で子どもたちの保養と自然の中での保育を目指す活動を続けているNPO法人「青空保育たけの子」代表である辺見妙子さんから「被ばくから守り自然の中で子育てを」と題するお話しがありました。辺見さんの講演の概要です。

４月16日から23日まで８日間、身体に線量計をつけてみました。この結果をグラフにすると、福島市内では高めですが、米沢に行っている時は低いことが分かります。意外なことにいつも子どもたちの集合場所として使っている公園が非常に高いことが分かりました。除染も終わり空間線量は低いとされている所です。この値を見てその場所を使うことをやめました。また、線量が突出して高い所もあります。福島市内にはまだホットスポットがあるのです。

行政がやる空間線量測定だけでは汚染の状況は十分に分からないのです。土壌汚染は公開されていません。子どもは土を口に入れたり高い線量の木肌に触ったりします。だから子どもを遊ばせていいのか不安になるのです。こうした福島の現状からすれば、まだ保養は必要と考えています。

震災前の2009年に保育を始めました。「自然の中で幼児期に大切な五感を磨き、その子らしさを大切にし、共に成長する」ことを目的とした「青空保育たけの子」です。2010年４月に「青空幼児園たけの子」と改名しました。東日本大震災、原発事故後の2011年11月から移動保育を始めました。

原発事故後に、子どもが外で遊ぶことについて福島県は「1時間当たりの空間線量が10μSv以下であれば外で遊ばせて大丈夫です」（山下俊一氏）と言っていたのです。今でもこれは正しいと言っています。しかし、多くの人は不安感を強め子どもを連れて家族で避難しました。もちろん残った人も多かった。ところが福島市内のどこが線量が高いか分からない状況の中で、子どもたちは外に出ることもできず、外で遊ぶ時は夏でも長袖にマスクをしていました。当時「たけの子」にいたＭ君に「やりたいことは何」と聞くと「ブランコ」と答えていましたが、震災後に初めてブランコをしたのは６月末です。

このような状況の中で、福島市は冷暖房完備の市民会館のガラス張りの部屋の中に砂遊び場を作りました。しかし、屋外の砂場であれば木の葉っぱを持ち込んで自由に遊ぶことができます。自然と触れ合うことのない室内砂場で遊んで子どもたちは何を感じるでしょうか。本当に疑問です。また、市内に冒険遊び場を作ったのですが、放射線測定（2014 年７月）してみると桜の木の横、ベンチの前などの線量は高いのです。

「たけの子」では、毎日、山形県米沢市まで行って、自然の中で思い切って遊ばせています。現在、７人の子どもがいます。保養に参加したお母さんの話ですが、他の人に保養の話をしたら「まだそんなこと言っているの！」と言われたそうです。福島では本音の話ができない状況になっています。子どもだけではなくお母さん方が共感しあって話す場も大事だと思っています。

子どもを保養に参加させている母親も「行かせてよかった」と思うのですが、福島に戻ると「ではなぜ福島にいるの？自分がしていることは悪？」、「放射線のこと忘れなきゃ。もう考えるのよそう」と思ってしまうようです。心の中でぐるぐる回っているのです。

子どもたちは原発事故とは別に、以前に比べ外で遊ばなくなっています。子どもの遊びは危なくて汚くてばかばかしいんです。意味のないのが遊びです。そこから始まります。室内は直線です。直線文化に押し込まれると情感が養われません。外で遊ぶことは意味のあることです。

私は、「たけの子」での保育と放射線の問題から見えてきたことは「教育」だと思っています。最近見た「かすかな光へ」という映画の中で「人は違う存在。ひとりひとりの人間がかかわって生きている。そして人は変わる。この３つが保障されることが基本的人権」というメッセージがありました。これだ！と思っています。

福島の人の心情は複雑

こらっせユースの報告

辺見さんの講演の後、フロアからの質問・意見を受けました。この中で放射線量が高い福島に住む人達にどのように話したらいいのかという質問に対して福島の人達は、危ないと思っています。でも外の人に「危ないんじゃない」と言われるのは嫌なんですね。ですから行政は線量を調べているし食品だって調べている。でもちょっとこういうところに行ったらいいかも、と肯定的に話すといいと思います。直接的な言葉で言われると、人はつらいんですよ。あんたなんかに言われなくたって分かっています、と言いたくなるんです。

また、「本当に大丈夫」と思えるか状況については、科学的根拠を示すことで、たとえば尿検査をしっかりやるとかが必要。なんとなく大丈夫ではだめで、不安感が増すだけと答えました。

「こらっせユース」も報告

「こらっせユース」の大学生が報告しました。平戸萌子さん、山﨑由里恵さんが昨年夏、山北町にて3泊4日で行った「リフレッシュプログラム」について、写真などで詳しく説明をしました。また、松田優希さんが、春休みに行った学生による楢葉学童保育支援の様子を報告しました。どちらの報告も、パワーポイントを使ったプレゼンテーションで、子どもたちに対する気持ちがよく伝わってくる、とてもわかりやすい内容でした。　（事務局　蜂谷隆）

アースデイ報告

事務局　横山満里奈

4 月 22 日(金)～24 日(日)、アースデイ東京のキッズウィークエンドにスタッフとして参加させて頂いた。アースデイ東京は、アースデイの理念「地球のことを考えて行動する日」を伝えるために、毎年 4 月に開催する日本最大級の地球フェスティバルである。日本では 1990 年に第1回目が開催され、NPO、ボランティア等の市民団体や趣旨に賛同する企業、飲食店が代々木公園に集まり、多数のイベントが企画されている。

おがくずのプールは、ヒノキの良い香り！

その中のイベントの 1 つとして、2012 年よりキッズウィークエンドが開催されている。これは、会場内のワークショップや自然体験プログラムを中心に環境問題に対する取り組みについて楽しみながら学べる 2 泊 3 日のリフレッシュ保養バスツアーである。対象は福島に住む小・中学生であり、23 日(金)の夕方に福島からバス4台に分乗し、代々木オリンピックセンターへ向けて出発する。現地では、3 つのコース<青梅、自由の森、代々木>に振り分けられる。今回のアースデイでは、昨年度キックオフミーティングでも講演を頂いた吉野裕之さん(NPO 法人シャローム災害支援センター)からの御依頼で、代々木コースのバスツアーに参加させて頂いた。そして、大学生のこらっせユースメンバーから、松田さんと黄さんの 2 人も土曜日のプログラムに参加した。

飛んで！跳ねて！和太鼓体験

1 日目は、21:00 頃に福島から子ども達が代々木オリンピックセンターに到着し、その日はお風呂に入ってすぐに就寝した。2 日目の午前中は、メイン会場にて散策した。各店舗での展示、食べ物、また、クイズラリー、フェイスペイント等の無料イベントも沢山あったので、子ども達は時間が足りない様だった。土曜日から参加したこらっせユースの 2 人も、子ども達とあっと言う間に打ち解けて、買い物やイベントを一緒に楽しんでいた。午後は、明治神宮内の西芝会場(アースデイでは、明治神宮いのちの森会場と呼んでいた)に移動し、和太鼓ワークショップ体験を行った。ここでは、子ども達は広い芝生の上で走り回ったり、おが屑プールで遊んだり、泥だらけになったり、自然の中で思いっきり騒いでいた。3 日目の午前中は、メイン会場にて再び散策し、午後は NHK スタジオパークにて、アニメのアフレコやニュースキャスター体験等を行った。そして、14:00 頃子ども達は福島に向けて出発していった。

短く感じた 2 泊 3 日だったが、とても充実した時間だった。子ども達は普段、家の中で遊ぶことが多いため、自然の中で思いっきり遊ぶのはかなり新鮮だった様だ。また、長いバスの移動時間でも、寝るのを惜しんでずっと喋っていたのが印象的だった。普段の何気無い日常生活から少し離れ、子ども達は、よく笑い、よく食べ、よく学び、とても伸び伸びしていたように感じた。そして、初めて関わったボランティアや、新たな発見も沢山あり、自分自身にとっても貴重な経験となった。今回、この様な活動に参加させて頂きありがとうございました。今後もこらっせ以外の活動にも視野を広げて、自分の出来る範囲で関わっていきたいと思う。